

未知への挑戦で成功の扉を開き、  
規模拡大を可能に。



株式会社 柳谷ファーム

## 1 はじめに

弊社は、米子市■■■■の■■■■地区約 100ha において、水稻を中心に繁殖和牛と白ネギ等の複合経営を行っています。経営理念として、祖父の代から「農業の基本は土づくり」であるという考えを引継ぎ、自家製の堆肥を使った土づくりにこだわり、化学肥料の量を抑え、安全・安心で、環境にも優しい循環型農業に取り組んでいます。

当初は家族経営で祖父や父が地域農業の担い手として営農を行っていましたが、私が平成 22 年に後継者として就農したことをきっかけに、平成 23 年 2 月に法人化を行い、平成 26 年 4 月に取締役就任を経て、令和 5 年 12 月に父から事業承継し、代表取締役に就任しました。

法人化以降、プラン事業を活用して繁殖和牛部門の生産拡大や水稻部門の作業の効率化を実施したことにより、当初計画どおり規模拡大を行い売上高も増加となりました。社員に対しては社会保険の加入や休暇制度など福利厚生も充実させました。おかげで、コロナ禍においても新たに雇用者を増やすことができ、地域雇用に対し貢献を果たすこともできました。

しかし、後継者不足や高齢化を理由とした離農による耕作依頼は依然として増え続けているのが実情あり、地域の担い手としては強い使命感を持ってこれに応えなければならぬと考えています。

また、雇用人員を増やしたこともあり、さらなる収益向上に取り組む必要があるとも考えていたところ、米価下落、子牛価格の下落、燃油・資材高騰による収益性の低下などの課題が浮上し、地域農業の維持のためにも経営の見直しは早急に必要だと感じています。

そこで、耕種部門の経営安定と繁殖和牛部門の生産コストの見直しを行うため本プランに取り組むことにより自社の経営を安定させ、地域農業の維持発展に貢献し続けていきたい所存です。

## 2 現状

### (1) 作付面積・飼育頭数等

前回プランでは、水稻部門の作業効率化と繁殖和牛部門の生産拡大による経営発展を目標に取り組み、目標値に対する達成状況は表 1 のとおりとなり達成率は 8 割となりました。

各作目について説明すると、輸入価格高騰の影響による国産需要の高まりや国の方針もあり、飼料用米や飼料作物、大豆の作付けは大幅に増加しました。白ネギは作業効率化の一つとして作付け面積を減らす計画としており、水稻部門や白ネギについては概ね目標を達成することはできました。

一方、牛伝染性リンパ腫の影響や、その拡大防止のため、牛舎飼養空間に制限がかかり、当初想定していた牛舎の利用方法ができなくなったこと、生産資材の高騰により飼料・資材に制限をかけざる得なくなったこと等が繁殖成績に悪影響を及ぼしてしまったため、繁殖和牛部門の生産拡大は目標に達しませんでした。

表1 前回プラン目標に対する実績

I 自作面積

作目		R5 年計画	R5 年実績	達成状況
水稻 (うち飼料用米)		75ha (25ha)	77ha (38ha)	/
大豆類	大豆	0.8ha	4.0ha	
	黒大豆	0.3ha	0.3ha	
	小豆	0.1ha	0.1ha	
飼料作物(刈取り面積)		15ha	15ha (実面積 8.6ha)	
合計		91.1ha (25ha)	96.4ha (38ha)	○
合計 (実面積換算)		—	90ha (38ha)	

II 作業受託・白ネギ面積、繁殖和牛頭数

作目			R5 年計画	R5 年実績	達成状況
水稻	作業受託	耕耘(延べ)	10ha	13.43ha	/
		代かき	10.7ha	12.8ha	
		田植え	12ha	10.6ha	
		収穫	20ha	<del>20ha</del> 17.79ha	
		合計面積	52.7ha	54.62ha	○
		畦塗り	6,500m	6,519m	○
	乾燥調整(延べ)	8,000 袋	<del>10,821 袋</del> 8,000 袋	○	
	育苗	16,000 枚	15,614 枚	○	
白ネギ			0.60ha	0.49ha	○
繁殖和牛			159 頭	<del>132 頭</del> 110 頭	×

※下線箇所は概算値→実績値に修正

達成項目/目標項目=6項目/7項目 → 8割達成

## (2) 労働状況

労働状況については、以下のとおりです。令和4年に従業員を2名増やし計9名。

表2 R5年役員及び従業員について

	役職・担当	従事者	担当業務
役員	代表取締役	柳谷 雄大	経営全般
	取締役会長	■	補佐
	取締役専務	■	総括、経営全般
従業員	事務担当	1名	従業員 計9名
	企画、広報担当	1名	
	耕種部門担当	4名	
	和牛担当	3名	

## (3) 所有機械一覧

別紙のとおりです。

## 3 課題と解決方法

今回、新しく取り組むプランは、耕種部門の経営安定と繁殖和牛部門の生産コストの見直しを行うため、主に表1の1自作面積の規模拡大に取り組めます。各作目における課題と解決方法は次のとおりです。

### (1) 耕種部門の経営安定

令和2年以降コロナ禍の影響により業務需要低下が原因として米価が大幅に下落し先行きが不透明な時期が続きましたが、令和5年はようやく下落前の価格に回復する兆しがあるものの、田植後の日照不足により分けつ数の低下、その後の高温の影響により収量や品質の低下が顕著となり、加えて生産資材の高騰による収益性の低下を余儀なくされました。米価の動向を楽観できる状況ではない中、従業員も増えており、現在は1名当たり15haで経営を考えていますが、1人あたり20haまで増やさないと採算が合わなくなるだろうと危惧しています。

さらに、周辺地域から耕作依頼に対し十分に対応できる人員は確保できている状況ですが、農業機械類の整備が不足しており適期作業及び面積拡大できないことも課題となっています。

そこで、作業の高速化のための機械の導入、機械の汎用化による生産コストの見直しを行うことで経営規模の拡大に取り組むとともに直販の販売力を強化することで収益の回復に取り組むたいと考えています。

### ①耕耘・代かき作業の効率化

耕耘で使用可能なトラクターは、100ps、97ps 及び 95ps の3台、代かきで使用可能なトラクターは、100ps、97ps 及び 65ps の3台です。しかし、牧草の刈取り作業の重複、作業に必要なアタッチメントの不足により、現状は各作業とも2台体制となっています。

さらに、年間作業計画のとおり育苗、田植等の他の作業と重複すること、作業は天候に大きく左右されることから、この時期は1日当たりの労働時間がどうしても長くなってしまい、日が暮れても作業が終わらない状況となっています。

このたび、従業員が増えたこともあり、オペレーターの増員が可能となったことから、下表のとおり各作業を3台体制とし、従業員の就労条件の改善を図りたいと考えています。そのためには、新たにロータリー（2.6m）及びハロー（5.0m）の導入、ハローを現有4.0mから4.5mへ性能向上する必要があります。

表3 耕耘及び代かきのトラクター稼働計画

トラクター 性能	耕耘（ロータリー）		代かき（ハロー）	
	現状	目標	現状	目標
100ps	○	○	○	○
97ps	○	○	△	● (5.0m 幅)
95ps	△	● (2.6m 幅)	—	—
65ps	—	—	○	● (4.0m→4.5m 幅に変更)

※○：既存のアタッチメントで作業を行う

△：人やアタッチメントがないため作業が行えない。

—：他作業で使用中

●：アタッチメントを新たに導入して作業を行う

### ②水稻の規模拡大と乾田直播の導入

現在、自作と作業受託を行っていますが、依頼者からの要望等を勘案すると作業受託は自作に置き換わっていくものと予想しています。

自作となると移植栽培は、所有する育苗ハウスの規模から80haが上限となることから、増反は乾田直播で行いたいと考えています。それには、直播が可能な汎用播種機、除草対策に必要なブームスプレーヤの導入が必要です。

乾田直播は、米子市内の法人で取り組まれており、移植栽培と同等の収益性と労働時間の削減が期待できる結果となっていますが、ほ場の選定、播種時期、品種等の検討が重要となるため、普及所や試験場の指導を受けながら取り組みます。

また、ほ場の均平作業は苗立ち、水管理、雑草対策には重要な作業です。特に乾田直播は除草対策がとても重要となります。現在この作業をできる技術者が専務1名のみです。技術者の育成は非常に難しいため、代わりにレーザー均平機及びプラウ（12インチ・6連）を導入することで技術不足を補いたいと考えています。

### ③大豆の規模拡大

現在、大豆の播種、防除及び収穫は箕蚊屋大豆生産組合に作業を委託していますが、近隣の大型農家から作業を請け負ってほしいと要望があるため、汎用播種機及びブームスプレーヤ、汎用コンバインを導入し、要望に応じていきます。

なお、大豆にとって湿害が最も収量を低下させる原因となり、水田転換畑においては、湿害をいかに回避できるかが最重要課題です。この課題解決のためには、②で導入するレベラーを施工することでほ場の凹地解消により帯水を防ぐこと、もしくは緩傾斜をつけることで、降雨後も迅速な排水が可能となり、湿害を回避できます。

さらに、水稻と大豆の輪作は相性が良く、窒素が固定化され米の収量向上に繋がることから、大豆の作付面積の拡大は経営安定には必要だと考えています。

### ④乾燥機の処理能力の向上

現在、70石×6台、55石×2台が稼働しています。前回の飼料用米の規模拡大を見越して乾燥機の処理能力を拡充しましたが、計画以上に飼料用米が増えたことにより乾燥調製に時間を要しています。今後、水稻の規模拡大を計画していることから、更に乾燥機の能力の拡充が必要です。そのため、55石×2台を処分し、新たに70石×2台を導入することで能力向上させ、適期刈取り・乾燥体制を整えます。

### ⑤主食用米の販売力の強化

主食用米の販売は、直販（地元の幼稚園、学校、病院、福祉施設、飲食店等）が主となっています。米の消費量が減少し販売競争が激化していますが、長年、地元で営農してきた我々としては、ただ、生産して販売するのではなく、まずは地元の消費者の方に関心をおこすこと、こんなにおいしいお米があることを知って欲しいと考えています。

そのために、米の直接配送に力を入れるとともに、引き続き地元行事やイベントへ参加し、知名度を高めていきます。

## （2）繁殖和牛部門の効率化

「農業の基本は土づくり」であるという考えに基づき、自家製の堆肥を使った土づくりにこだわり、循環型農業に取り組んでいる自社にとっては、繁殖和牛部門は重要な部門です。規模拡大を行うため、平成30年に新牛舎を自己資金で建設し、繁殖和牛の増頭に取り組みました。しかし、牛伝染性リンパ腫の影響や、その拡大防止のため、牛舎飼養空間に制限がかかってしまったこと、輸入飼料高騰の影響や子牛価格の下落も重なり和牛繁殖は厳しい状況です。

### ① 遺伝的改良を伴った増頭の実施

母牛の増頭による繁殖ではなく、特に血統の良い母牛から受精卵を採取し、酪農家へ借り腹を依頼することで、和牛受精卵（ET）の子牛を安定的に生産し、増頭に取り組んでいきます。

#### ② 飼料の国産化による飼料の安定供給

輸入飼料の高騰により安定供給が難しい状況が続く中、近隣の畜産農家からも国産の飼料作物、イナワラ、飼料用米の増産の要望が強く、雇用を増員したことにより作付け拡大したところです。しかし、飼料作物、イナワラの需要は多いため、今後も増産が必要なのですが、水稻の裏作として作付け拡大をしてしまうと現有するラッピングマシンとロールベラーでは能力不足となってしまいます。そこで、ラッピングマシンとロールベラーの能力を向上させるとともに、新たに夏に栽培する牧草の作付けに取り組むを行うことで、自社及び近隣農家への安定供給の強化に取り組んでいきます。

### 4 プラン目標

表4 耕種部門の栽培面積目標

作目	R5年 (実績)	R6年	R7年	R8年	R9年 (目標年度)
水稻・移植 (飼料用米)	77ha (38ha)	77ha (38ha)	80ha (38ha)	80ha (38ha)	80ha (38ha)
水稻・直播	0ha	0ha	3ha	4ha	5ha
大豆	4.4ha	4ha	5ha	6ha	7ha
飼料作物 (冬牧草・草地)	8.6ha	10ha	10ha	10ha	10ha
飼料作物 (夏牧草・草地)	0ha	4ha	6ha	6ha	7ha
合計	90ha	95ha	104ha	106ha	109ha

### 5 具体的な取組みと役割分担

具体的な取組項目	R6	R7	R8	R9 目標年度	役割分担
水稻の規模拡大（乾田直播）	○	○	○	○	法人・県
大豆の規模拡大	○	○	○	○	法人・県
水稻・大豆機械設備の充実	◎	◎	◎	—	法人・県・市
主食用米の販売強化	○	○	○	○	法人
和牛の改良	○	○	○	○	法人・県
国産飼料の安定供給	○	◎	○	○	法人・県・市

○事業主体によるもの

◎県・市の支援が必要なもの（がんばる農家プラン事業）

## 6 支援事業の内容（年次計画）

（単位：千円、事業費税込み）

項目	R6	R7	R8	負担区分
汎用播種機	5,747			県1／3 市1／6 事業主体1／2
ブームスプレイヤー	8,981			
ロータリー	1,628			
ハロー（4.5m）	3,005			
ハロー（5.0m）	2,559			
乾燥機 70石×2台	7,084			
プラウ		3,212		
レーザーレベラー		6,314		
ラッピングマシン		2,332		
ロールベラー		8,538		
汎用コンバイン			19,519	
計	29,004	20,396	19,519	

## 7 事業効果

## (1) 経営の安定化

農業機械の充実により、労働時間の偏りが無くなり、且つ適期作業が可能となることで、収量・品質の向上が図れ、経営の安定化に繋がる。

## (2) 地域への貢献

経営が安定することで100haに及ぶ農地の維持を含め、地域経済への貢献、近隣畜産農家への安定した国産飼料の供給、人材の維持が可能となる。

## 8 添付資料

- (1) 収支計画（経営面積20%増）
- (2) 年間作業計画
- (3) 減価償却一覧表
- (4) 機械・施設のカatalog、見積り
- (5) 導入予定機械の規模決定根拠
- (6) 農業経営改善計画の写し